

第3回検討会議における委員からのご意見について

発言者	内容	事務局の考え方
宮原委員	「キッズ・プロジェクト」の「誰もが過ごしやすい美術館」という要素や、授乳室の設置などは、コンセプトの（1）よりはむしろ（2）に入るべき内容なのではないか。目的と事業、改修の関係を明確に示してもらいたい。	「キッズ・プロジェクト」には美術館全体で展開する様々な取組が含まれており、本来どれか一つのコンセプトに限定できるものではないと考えられます。ここでは（1）の中に記載しましたが、その考え方がより伝わるよう、基本方針（最終案）では16頁のように表現を改めました。
小野田委員	「キッズ・プロジェクト」で行う活動は、魅力的な外部空間と一体化してはどうか。活動の場を北庭付近に設け、庭と子どもの近接を実現する。	「キッズ・プロジェクト」に含まれる各種の活動においては、建物の外部も重要な舞台として位置づけております。外部との繋がりを感じやすい活動やプログラムを可能にする設計を検討します。
小野田委員	西道路を避けた建築のため、建物が奥まっており、道路から視認しにくい。道路際の建屋の改修や植栽の撤去などが有効だと考えられる。	道路から館内への誘引については、美術館のもつ課題として留意しながら設計を検討します。スムーズな入館と外構整備に関する記載を18頁に追加しました。
小野田委員	図書室付近の魅力が乏しく、北庭や佐藤忠良記念館への誘導が弱い。この周辺をもっとオープンな空間にすると良いのでは。	図書室の機能は「情報・交流ラウンジ」に移すことを検討しています。従来の図書室の付近については、建築の動線上重要なポイントであることをよく考慮し、オープンな空間にすることを検討します。
小野田委員	中庭が寂しく、周囲の施設との連携も弱い。中庭にガラス等による屋根を設置し、全天候型の空間にする方法もある。	中庭はにぎわいの生まれる拠点の一つとすることを目指し、周囲の施設との関係やそこで行われる活動を見据えながら、その魅力や求心力を高められるよう工夫した設計を検討します。